

『課題解決型インターンシップ』 工大サミット連携 PBL 実習報告②

課題解決型インターンシップとは、

- ・『実践する力』（学んだ知識を応用し、実際の仕事の中で活用していく力）の育成を目的とした、2・3年生対象の選択科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の1つの型。
- ・企業が実際に抱える課題に取り組み、課題を解決するためのプロセスを実践することで実社会でも応用可能な汎用的能力を養うことを目的とする。2名程度でチームを組み活動することにより、自分の専門性を活かしながら他者とチームで働く力を養うことができる。

- 企業名 : 広島工業大学
- 課題 : 広島・宮島町家の保存と活用
- 達成目標 : 現地調査に参加し、限られた実習の中で、地域が抱えている課題を理解する。また、課題解決を目標として、他大学の学生とのチームでの活動に主体的に貢献する。
- 概要 : 世界遺産・宮島（広島県廿日市市）にある伝統的な木造建築である「宮島町家」を取り巻く現状及び課題を抽出し、現地調査に基づいてその保存と活用に向けた解決策の提案を行う。

調査テーマ決定のための話し合い



発表に向けた判別での話し合い



当日の発表の様子



【課題発見編】

私たちは、まず、宮島の町屋の構造やその歴史、課題について広島工業大学の教授から説明を受けました。その後、グループに分かれて、どのような課題を設定するかを検討し、フィールドワークを行いました。翌日、グループで協力し、PowerPointを作成し、設定した課題と背景に関する発表を行いました。

【課題解決編】

まず、前回設定した課題についての再検討を行いました。その後、フィールドワークを行い、課題の解決策の模索を行いました。フィールドワークでは、現地住民や観光客の方にヒアリングを行い、根拠のある解決策の提案ができるように準備を行いました。翌日、グループで協力してPowerPointを作成し、設定した課題とその解決策についての報告を行いました。

情報工学科 3年 谷 雄貴

私たちの班では、「宮島の宿泊施設」という部分に焦点を当て、調査を行いました。宮島の観光客数に対し宿泊者数が少ないという点を問題視したからです。その結果、宿泊者向けに安価で町家を貸し出すという解決策に至りました。

社会環境学科 3年 白坂 優成

私たちの班では、「朝の宮島・夜の宮島」というテーマで調査を進めました。宮島の宿泊客が少ないという現状からこのテーマに設定しました。その結果、季節限定で朝・夜の営業を行い宮島の朝・夜の魅力を伝えるという解決策に至りました。

・インターンシップとしては少々変わった形式のもので、業界研究とは違った特色を持っていました。この活動では観光客や地元住民の方、他大学生のような普段関わることのない方々とコミュニケーションをとる機会が多く、対人能力が磨かれたと思います。また、分野や環境の違う学生との協力作業によって、それぞれの持つ特性や知識によって役割を分担するということの重要性を学ぶことができました。実際に社会に出てからは、普段関わり合いのない方との作業や話し合いは避けては通れないと思います。そういったときに、このインターンシップで学んだことを有効に活かしていこうと思います。（谷 雄貴）

・宮島の町家という今まで知らなかった視点から課題を解決していったので、最初は町家について知ることから始まりました。そのため、初めて知ったことがたくさんあり、どのように解決策を出していくべきか悩みました。しかし、学部や学科、大学の異なるメンバーと活動を行ったことによって様々な分野から見た考え方を共有することができたとともに、自分に足りていなかったコミュニケーション能力を高めることができました。今後、社会に出た時には私自身とは異なる考え方をもちた人と接する機会が多くなります。さらに、コミュニケーションが重要になってきます。その際には、今回のインターンシップでの経験が生かせるようにしていきたいと考えています。（白坂 優成）